

坂の上通信

平成二十九年六月十二日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文芸部(四〇三演習室)

文化祭準備 校内に活気

練習・準備に余念なし

6月16日金曜日、17日土曜日に、第29回文化祭が開催される。12日月曜日から文化祭週間となり、全校あげての文化祭準備に突入する。特に文化系部活動にとっては、年に一度の大々的な発表の機会だ。今回は全ての文化系部活動に取材を行い、現在の取組状況や当日の見どころを聞いた。

文化系部活動は、ステージ発表を行う部と展示発表を行う部に大別される。前者は吹奏楽部や演劇部、放送部が該当する。書道部は展示も行うが、開会行事のオープニングや中央ギョリーでのパフォー

マンスも行うなど様々な形で発表を予定しているようだ。生徒会顧問の村井先生からは「例年通り、大きな盛り上がり期待している」との一言をいただいた。今年の文化祭テーマは「色彩美」である。当日はテーマ通り、色々な形の発表を予定しているようだ。



美術部

美術部は作品の展示に加え、うちわと缶バッジの販売を行う。当日に向けて現在は自分の好きな作品を描いている段階だ。準備期間が短いので、かなり切羽つまっている状態だ。新入部員である一年生の作品が、一番の見どころだ。



書道部

書道部は今年も初日にステージで、二日目には中央ギョリーで書道パフォーマンスを行う。三階での展示も例年通り行う。美鈴が丘高校は、今年で創立三十周年を迎える。書道パフォーマンスは、そのことをテーマにしたそうだ。



吹奏楽部

吹奏楽部は、両日ともにステージでの演奏をお届けする。完成度の高い演奏を披露するために、意見を出し合いながら毎日練習している。今年で創立三十周年を迎える。感謝の気持ちを忘れず部員一同頑張ります」と語った。



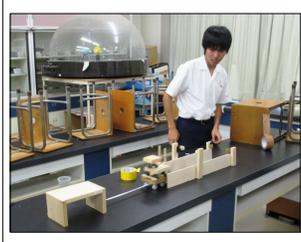
ESS

ESSでは、カリフォルニアのクパチーノ高校から来られる生徒17名・先生3名に美高を案内し、広島を紹介を行う。またカリフォルニアの紹介ポスターの展示もするそうだ。「協力して頑張った作品を、ぜひ見てください」と語った。



コンピュータ部

コンピュータ部では、自分たちで作ったゲームの展示と音楽を発表する。特に、音楽制作にはかなりの時間をかけて本格的なものになっている。音楽を流すだけではなく映像も映すそうだ。どんな出来栄になるのか、楽しみにしている。



科学部

科学部は今年もプラネタリウム、ピタゴラス装置、カメラの展示を行うようだ。今年には特にプラネタリウムに力を入れているという。取材時に制作中だったピタゴラス装置も力作である。昨年よりも新しく、面白くなった科学部を見に行こう。



放送部

放送部は、毎年恒例の歌リレーと先生企画、そしてドラマの上映を行う。現在はビデオ編集をがんばっている最中だ。見どころは、やはり歌リレー。各クラブの歌った歌が一つになる、生徒達の活動の集大成だ。当日が楽しみである。



演劇部

今年の演劇部の演目は「Non-scappare!」という劇だ。「衣装や小道具など気付きにくい所もしっかり作り込んでいるので、じっくり見してほしい。最後はダンスをするので、手拍子などで、一緒に盛り上がり上げてほしい」と語った。



茶華道部

茶華道部は、三年生が中心となってお手を披露する。普段とは違う生徒の一面や、茶席の雰囲気を楽しんでもらいたい。華道部は個々の個性を大事にしながら生けた花を展示し、それらの選挙も企画している。ぜひ鑑賞に訪れてほしい。



あすなる会

今年は、アイロンビーズやゲームを準備しているそうだ。私たちに分かりやすい形で障害についてより深く理解してもらえるように、点字やジェスチャーを取り入れた展示企画を行う。景品も用意しているそうなので、ぜひ来場してみよう。



新聞文芸部

新聞文芸部では、バックナンバーの拡大展示と『美鈴が丘辞典』の配布、そして美高生の将来のビジョンをテーマとした特集記事を展示する。さらに今年には新企画として「美高文化祭ができるまで」の報道写真の展示も行う予定だ。

美・鈴・鈴・鈴

誰もが楽しみに待っている年に一度の学校行事、文化祭。その日が近づいてくると、どんな事をしようかと期待を胸に膨らませている人が多いだろう。しかし、毎年行われているこの文化祭が、どの時代に生まれ、どのくらい続いているか知っている人は少ないだろう。▼文化祭の始まりは終戦後、1948年から言われている。戦時中はその時勢からこういった創造性のある自主活動はあまりできなかった。戦後はそのような制限がなくなり、様々な部活動が活性化された。それとともに、活動内容の発表も望まれるようになった。▼文化祭は何よりも楽しい行事であるが、同時に文化祭成功という目標を仲間と共有し、深い達成感を味わうことができる行事だ。また地域社会との結びつきを深め、豊かな生活に貢献するという目的もある。▼ともあれ、三年生にとっては最後の文化祭。悔いの残らないよう、全力で取り組もう。

(玉置美里奈)

編集後記

文化祭に向け、各部門も楽しく準備をしている様子が伝わってきた。当日も楽しみたい。